

事業所名		子ども支援ルーム 美（ちゅら）ぐる				支援プログラム（児童発達支援）		作成日		令和 7 年		3 月		1 日	
法人（事業所）理念		◆私たちは、法令遵守を徹底し、健全な事業経営に努めます。◆私たちは、共に働く仲間を大切にし、支え合い、共に成長できる温かい職場をつくります。◆私たちは、感謝の心、素直な心、思いやりの心、謙虚な心で役割・使命を果たします。◆私たちは、相手の話に耳を傾け、相手の立場になって考え、相手の気持ちに寄り添い、真摯に向き合います。◆私たちは、常に知識と技術の向上を心がけ、自己研鑽に努めます。													
支援方針		「共に過ごし、共に学び、共に考え、共に悩み、共に喜び、共に育つ」。子どもの発達過程や、一人ひとりの発達の状態、特性を理解し、家庭との連携を大切に子ども本人や保護者の気持ちに寄り添った支援をおこないます。個々の課題（困りごと）の解決と自立に向けて、自主性・協調性・社会性の芽生えを培うことを目指します。 (1)安心・安全な環境で、個々の様々な要求（ニーズ）を適切に満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ります。 (2)健康・安全な生活に必要な基本的生活習慣や態度を身につけます。 (3)人とのかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして自分や周りの人を大切にする心を育てます。 (4)自然や社会の事象について興味や関心を引き出し、それらに対する豊かな心情や思考力を育みます。 (5)生活や遊びの中で楽しみながら「言葉」を育て、喜んで話したり、聞いたりする姿勢や態度を身につけます。													
営業時間		9 時		0 分から		18 時		0 分まで		送迎実施の有無		（あり）		なし	
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	・心身の健康状態の把握と管理（検温や視診を通じて健康観察を行う）。 ・手洗いや消毒など自分のできることを習慣づけ、健康維持や予防行動を身につける。 ・ラジオ体操（健康生活の基本となる体づくりを目指す）。 ・身辺自立にむけた支援（食事や排せつ、衣類の着脱、身のまわりを清潔にすることなど、生活に必要な基本的スキルを獲得できるようにする）。 ・整理整頓（お片付け）の習慣をつくる（片付けの取り組みに対して苦生意識や抵抗感を減らせるよう、タイマーを使って片付けの時間を区切ったり、片付けをゲームやチャレンジ感覚で楽しく進めていく。また収納ボックスにラベルやイラストを貼ることで物の把握や何をどこに片づけるのかを視覚的に示す）。 ・生活の中で、分かりやすい表示や構造への配慮、遊びや活動に適した場所や空間をつくるなど環境設定をする。													
	運動・感覚	・からだを主体的に動かすことで、運動能力や感覚の向上を図る。日常生活に必要な基本動作、運動機能、バランスや距離の感覚、力の強弱などを身につける。 （戸外遊び、ボール遊び、平均台、一本橋、バランスボール、なわとび、フープ、伝承遊びなど） ・様々な素材に手や足で直接触れ、基礎感覚を育む（感触遊びや素材遊び・・・小麦粉、片栗粉、パン粉など食材を使用したあそび。粘土、スライム、ゴム、砂、水、泡あそびなど）。 ・製作活動で、道具や素材の使い方を学び、作る過程を工夫しながらイメージを形にしていく力を育む。 ・歌や楽器に触れて音に親しみをもち、自己表現の方法を知る。またお友達と音やリズムを合わせたり曲を演奏する中で、協調性を育む。 ・感覚の特性（ある特定の感覚に関して極端に過敏さや鈍感さがある）に応じ、環境調整や個別支援を行う。													
	認知・行動	・『やることリスト』を作り、スケジュールや視覚的な手がかりを通じて行動の見通しをもてるようにする。 ・生活や遊びの中で数や量、形、色に関心をもち、全身を使った遊びや手先を使った遊びを通じて空間認知能力を育む。（えのぐあそび、図形タングラム、空間や形を表す言葉を使った会話や問いかけ、鬼ごっこやアスレチック、折り紙、ペーパークラフト、パズル、ブロック、積み木遊びなど）。 ・聞くことから身につけ、話を聞いて行動につなげていけるようにする（カードゲーム、中外ゲームやしっぽとりゲーム、マス鬼ごっこなどルールのあるレクリエーションなど）。 ・お当番活動を設け、始まりの会・おわりの会のあいさつや号令、集団活動時のリーダーなど、役割をもつことで自信や自立心を育て自己肯定感を高めていけるようにする。 ・散歩や所外活動において、交通ルールや公共の場におけるルールやマナーを身につける。													
	言語コミュニケーション	・言葉を覚えて理解する、自分のおもいや考えを言葉で伝える方法を学び、話の聞き方を学び、相手の話を聞いて理解することなど、特性に合わせた働きかけで言葉の発達を促す。 ・遊びを通して発語を引き出し、言葉の意味や物との関連を学び言語理解力を高める（ジェスチャーゲームや伝言ゲームなどのレクリエーション。しりとり、カルタ、ごっこ遊びなど）。 ・ことば以外に、表情や目線、身振り・手振り、声のトーンや大きさ、相手との距離の取り方など、それらを用いて自分の意思を伝える手段を身につける。 ・ひらがなことばカードを用い、語彙力を養う。気持ちカードを取り入れた視覚支援で、気持ちへの関心を高めて『自分の気持ち』や『他者の気持ち』に気づくことができるようにする。 ・活動の最後に、自分の思いや考えをお友達と伝え合う“今日の振り返り”時間を設定する。言葉での表現が難しい場合は、職員が気持ちを代弁するなど個々に応じて支援する。													
	人間関係社会性	・子どもの話や訴えに耳を傾け、おもいや願いを受け止めることで信頼関係を構築する。 ・自分の感情や行動をコントロールする力を育む（感情が不安定になっているときや周りからの働きかけを受け入れることが難しいときには、子どもの気持ちに寄り添った受容的・共感的関わりで、安心できる環境をつくる。感情や行動の対処法を一緒に考えていく）。 ・小集団での生活や遊びを通じ、順番交代、自分の役割、ルールを守るなどを身につける。 ・様々な所外活動を通じ周りの人と関わる経験を積み、場面に応じた行動を意識できるようにする。（こんなときどうする？こんなときどんな気持ち？を学び、相手や場面を考えて行動する意識づけを図る）。													
家族支援		・子どもの特性や発達状況に関する相談・助言等。 ・困りごとや子育てに関する相談・助言等。 ・きょうだいへの相談援助。 ・地域資源や制度等に関する情報提供。						移行支援		・本人や家族、関係機関との連携。 ・共生社会の形成に向けた取り組み（可能な限り地域の保育・教育を受けられるようにするとともに、同年代の子どもたちとの関わりを支援する）。 ・発達の評価、移行先との調整や情報共有、支援体制づくり。					
地域支援・地域連携		・公共施設の利用や地域行事への参加を通じて、地域との交流を促進する。 ・生活する地域で必要な支援を受けることができるよう、保育所やこども園、幼稚園、市町村、医療機関などの関係機関と連携を図る。 ・相談支援事業所や併用事業所との連携、情報共有。						職員の質の向上		・研修の受講（虐待防止、身体拘束、BCP、感染症対策、安全計画に基づく研修など）、そのほか外部研修への参加や事業所内研修の実施 ・ケース会議やミーティング等					
主な行事等		・誕生会 ・季節の行事やイベントの実施 ・製作（季節や月のイベントに応じた造形活動） ・所外活動（社会見学、自然とのふれあい、イベントへの参加、まちたんけん、お買い物体験、外食体験、乗り物乗車体験など） ・クッキング													